

天地は大なりと雖も、其の化は均しきなり。万物は多しと雖も、其の治は一なり。人卒は多しと雖も、其の主は君なり。君は徳に原きて天に成る。故に曰く、玄古の天下に君たるは、無為なり。天徳のみと。

【大体の意味内容】

天地は広大であるけれども、その中で生まれ育つ者は、みな均しく造化のエネルギーを享受できる。万物は夥しく多用に存在しているけれども、根源的な一つの原理によって、紊れることなく治まっている。人民も多数で多様に存在しているが、それが平和に治まるための主は、君徳である。理想人格である「君」は、徳にもとづいた生命活動によって、天そのものとひとつになる。(今日の天気と、自分の元気が一つになる感覚を持てれば、決して間違いを犯すことはない)。ゆえにこういわれている、「太古の天下に君臨し得たものとは、無為自然の存在であつた。それは人間の小賢しい浅知恵や欲得ずくの行いを排して、一見、無為のまま自然に任せるように見えて、天の徳だけに従えるよう、己の心身を練つたものである」と。





この六枚の写真は何かわかりますか？

苔と、苔みtainな植物に花が咲いたものです。それぞれの種類の名前は私も知りませんが（茶色のは「杉苔」というようですが）、カメラのレンズを近づけて、「接写モード」で撮影すると、びっぺりするくらい美しく撮れます。

苔は種類によっては、大地を覆う美しい翡翠の絨毯を為すものもあれば、汚い黴のようなものもあります。ですがその黴も含めて、普通に歩いていては存在にすら気付けないちっぽけなものも、こうして凝視すると、そのまま「これが宇宙の美しさを代表しているのではないか」と思えるほどであるのです。まさに「天地は大なりと雖も其の化は均しきなり」です。

あへせと毎日を過ごすのではなく、この世の大きなもの、小さなもの、いろいろなものの付まいを見つめなおしてみましよう。「なんで今まで気がつかなかったんだろ」と驚いたり呆れたりするほど、この世は結構、美しいものに満ち満ちています。そのことを知れば、「まだ気づいてないものがたくさんあるかも」とワクワクしながら日々過ごすことができようというものです。それって、幸せなんじゃないでしょうか。だし、わざわざ醜い生き方へと逸脱しようという気力もわかる必要、感じなくなるのではないのでしょうか。